

報 告 書

2016年 8 月 5 日

望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2016年8月2日（火）～3日（水）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	地方議員・議会事務局研修会 マニフェスト・サミット2016 「政策で勝負する議会へⅡ～地域課題を解決する議会 とは～」 早稲田大学日本橋キャンパスホール（中央区日本橋1- 4-1 コレド日本橋5F
	(2) 対 応 者	主催：ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟 2016マニフェスト大賞実行委員会 共催：早稲田大学マニフェスト研究所 対象者：地方議員・議会事務局職員等120名
3 目 的	全国の地方議員が研鑽する場として、超党派で結集し、先進事例を参考にし、お互いに善政競争をする場である、キックオフ大会やサミット等に参加し、現在の自分自身、わが議会、会派等の立ち位置を検証できるので参加し、どう進めればいいのか・何が足りないのかなどを知り次の行動に繋がりたいと思い参加している。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>8月2日（火）13:00～17:00</p> <p>『調査報告・議会改革度調査、最新ランキングとその傾向～解決力のあ る議会とは』中村 健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長</p> <p>開かれた議会は、栗山町の基本条例制定から始まった。情報公開や住 民参加、議会機能強化などがキーワードで全国に波及。議会改革度調査 は10年前からスタート。ランキングが問題ではなく、議会が何をやっ てきているのか？政策を生み出す仕組みが整っているのか？検証され ているのか？などを調査。現在北海道の芽室町が連続1位。住民参加や 機能強化をしている。一般的に、予算決算に係わる調査研究が足りない。 又若者への呼びかけが足りない。さらに、地方創生に関する議会として の取り組みが特になされていない。委員会として、所管事務調査におけ るテーマ設定がされているか？執行部への対策はどうか？議会報告会</p>	

や意見を聞く会を政策提言へ繋げていく仕組みができているか？住民から何を負託されているのか？これまでの10年とこれからの10年。議員は何のために活動しているのか？地域課題は何か？身に伝える内容だった。

『地方議会に求める地域経営と公民連携の視点～ビックデータで変わる介護と水道インフラ改革～』

新日本有限責任監査法人・新日本パブリックアフェアーズ（株）

黒石 匡昭 氏

地方創生交付金の現状・全国の自治体の97%にあたる1739自治体でプレミアム付き商品券の発行だった。数字的にはみれば、地域消費喚起・生活支援型に2483億円を配分。子育て支援や観光振興等地方創生先行型1344億円を配分。いずれも同様では創生に繋がらない。先進事例には支援を継続。具体的な根拠事実に基づいて、必要性、有効性の裏打ちのある施策立案が必要だ。ありきたりな政策、一歩踏み込んだものはあまりなかった。政策課題①介護現場の崩壊問題

待機老人は何人いるのか？施設整備が必要・施設で働く介護士が必要。宮古島市、小豆島町などは、介護サービス産業高度化プロジェクトで地方創生施策として進めている。新人とベテランの仕事量の差に着目した対応 ②インフラ崩壊問題 産業や生活の基盤として整備される施設・社会で共有するという共通項がある。上下水道事業などは、人口は減少し、老朽化などもあり、今後、料金の値上げが予想される。今後、民営化なども考えられる。

『マニフェスト大賞10周年記念企画 善政競争の成果と課題～次の10年で、私たちが実践すること～』 善政競争が目指すもの

北川正恭 早稲田大学名誉教授・マニフェスト研究所顧問

気づきの連鎖こそが善政競争。これこそ文化の変化だ。中央政府と地方自治体の比較。中央の下請けが地方だったが、地方分権が打ち出され、機関委任事務からの構造転換がおこなわれた。意識改革が必要。制度改革に伴う自治事務を行うべきだ。中央⇒分権⇒創生へ。

歴代のマニフェスト大賞実行委員長の弁

マニフェスト大賞は、普段あまり取り上げられない地方議員の活動に光を当て、よりよい施策提言等を表彰するもの。アカデミー賞の政索版としてスタートした。議員の政索がどう伝わっていくのか？他の地方議会ではどんなことが起きているのか？党派を超えるプラットフォームとしての存在。政策をどう伝えていくか？公選法の改正により、地方議員も選挙時にビラが配れるようにすべきだ。大会の量と質をどう保っていけるか？政治家として自信を持っていけるように、情報の共有をする。

『善政競争の成果と課題』

各回のグランプリ受賞者

新政 みえ代表 三谷哲央 ・自民党横浜市幹事長 横山正人

大津市議会議会事務局総務課長 清水克士 可児市議会前議長 川上文浩

※議会事務局の充実 議会事務局⇒議会局(機構改革)

※横浜の条例制定には、法律の専門家が必要で、シンクタンクなどと契約

※三重県議 効果的に運用されているか、検証システムを構築

※可児市の高校生議会 18歳に選挙権が下がったが、どうやって選べばいいかわからない。

※開かれた議会と言うが、出来る事からやる、必要あるからやる

※議員が本気で、やる気を執行部に見せると執行部、職員も変わる。

※大津議会のミッションロードマップの名称の付け方が良い。

※会派と議員。議員は選挙のバーターとならない様に。個々の判断と会派の判断は異なる。

8月3日(水)9:30~12:50

政策提言

熊本地震に関する課題の共有とメッセージ

服部山が市議会議員

災害時、議員は、執行部にとって邪魔者? 自助共助をどう公助と結び付けていくか。執行部は、法に則て動く。議員は、困っている人を助ける使命感

公職選挙法改正に向けて~マニフェスト解禁と政策のあり方~

北川正恭 早稲田大学名誉教授

片木 淳 早稲田大学教授 旧自治省選挙部長

与良 正男 毎日新聞社専門編集委員

◆制度的に地方議員選挙でビラが配れるようにすべきだ。選挙は人気投票ではなく、政策で戦うべきものだ。その政策を書いたビラを有権者に届けることができないのはおかしい。

◆メディアの責任、報道の仕方に問題もある。メディアの危機でもある。

◆マニフェストの言葉を使いたがらなかった。(参議院選挙・東京知事選)

◆政権にすり寄り、文句言われるならやらない。

◆劇場型選挙が勝利した。◆戦術が巧みな方が勝利した。

◆既存の政党、議会議員に対する不信感の表れだ。

◆市民は、すべてを任せているわけではない。◆どういう方針で何をやるのか示してほしいと思っている。◆市民が主人公と意識すべきだ。

◆もともと議会の運営がボス政治だったのが、議員が変わり、議会全体が変わり、執行部も変わった。◆議会事務局には、市民への目線はなかった。

◆地方の課題ははっきりしている。この4年間で何をやるか、マニフェストとして示すべきだ。(実行過程・期間・財源・)数値化すべきだ。

◆何がゆがめられてきたのか、透明化すべきだ。◆民主主義の原点は議論にあり。議論が足りない。

◆公選法はべからず集だ。◆インターネットが解禁されたのなら、ペーパーも解禁してもいいのではないか。

	<p>◆国会議員は冊子・首長はビラ・地方議員は認められないのはおかしい。</p> <p>◆公選法もさることながら、放送法も変えるべきではないか。</p> <p>地方議会議員選挙におけるビラ配布解禁の要望書提出が決議された</p> <p>課題解決する議会へ～委員会活性化政策提言～</p> <p>宮古市議会 定住化促進対策に関する提言書と総合戦略への反映 松本尚美 定住化促進対策特別委員会委員長</p> <p>多治見市議会 総合計画の修正案の提出と反映 石田浩司 前第7次総合計画策定特別委員会委員長 鈴木良平 多治見市企画部長【前議会事務局長】 田中久夫 文教常任委員長</p> <p>■それぞれの市の委員会の設置経過や、総合計画との整合性など、また議会基本条例での実施状況など語られた。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>現在議会改革に取り組み始めた我が会派にとって、参考になる言葉がたくさんあった。一問一答や時間配分など気にしていたが、形式ではなく、質の向上が必要と感じた。情報公開・住民参加・議会機能強化など。議会が何をしているのか？二元代表の任をしっかりと担っているのか？</p> <p>政策提言に際し、具体的なプログラムを作成しているのか？市民の未来を創造する政策作りになっているのか？そのために市民としっかり対話・議論をしているだろうか？現在会派でやっている市民対話集会をどう発展させていけばいいのか？何のために私達は議員をしているのか？良くなっているのか？次々と自問自答してしまった。これまでの10年、振り返る必要を実感した。そのうえで、これからの10年を考えたいと思う。PDCAとはよく聞くことだし、それぞれの常任委員会で検証しているはずだが、中身や経過が良く見えない。まして市民はもっと見えていないはずだ。静岡市は、世界に輝く静岡を標榜している。その為に、歴史文化のまちづくりと健康長寿のまちづくりを進めている。人口減少に対しては、2025年に70万人の人口維持を目標に掲げている。本当にこの静岡市に住んで良かったと思えるために、抱えている課題を市民に伝えるべきではないか？これからは、市が何をしてくれるかではなく市民が何ができるかを考え、リードしていく必要があると。その役割は議員にもあるかもしれないが、シチズンシップをしっかりと育てるプログラムが必要。市長の思いをいかに市民に伝えられるかにもかかっていると思う。様々な場面で、人材不足だ。人材の育成と早期熟練化が必要だ。人にかかっている。地域差が出ない様に養成していかなければならない。人材育成は“こ・こ・に”ですすめられてはいるが、講座終了後のホローが必要だ。人財にしていくべきだ。</p> <p>執行部と議会は機関として対等な関係。決して議会は、執行部の追認機関であってはならない。18歳選挙は制度的に大きな変化だ。これからこれをどう育てていくか大きなテーマだ。会派として行った高校生との対話集会をどう進化させられるかこれからも議論していきたい。『国は地方から</p>

変える。地方は議会から変える。議会は議員から変える』この言葉を噛み締めた。